

ガガイモ

Metaplexis japonica

ガガイモ科

名前の由来

「ガガ」は、葉の形がスッポンに似ており、栃木方言でスッポンを意味する「コガミ」が変化したという説、種子につく綿毛で鏡を磨いたことから「カガミ」が転訛したという説、種子がゴマに似ているので「ゴマ」が転訛したという説がある。「イモ」は表面がざらざらしたイモ状の袋果からの連想だという。漢字名：蘿摩



ガガイモ。円内は半分にした実(袋果)

形態的特徴

ツル性で、よく他の植物に絡みついて茎をのぼし5 m以上にもなる。茎を切ると白い乳液がでる。葉はハート型(卵形で先がとがり、基部は心形)で両面に軟毛があり、裏面は白味がかかる。花は淡紫色で直径1 cmほどの星のような形(鐘形)で、内側には細かい毛が密生する。花は長い柄の上

に球状にいくつもまとまってつく。実は大きく、先がとがったカプセル状で、中に絹毛を持った種子がつまっている。

類似種と見分け方：イケマ。

ガガイモは茎や葉に毛が多いが、イケマは若い茎にわずかにある程度。またイケマの花は白色で、葉は卵形。

生育環境・分布

日当たりのよい草地や林縁などに生える。

分布：国外分布は、南千島・朝鮮・中国。国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、日当たりのよい草地や林縁などに普通に見られる。

生活史

開花時期：7月中旬～8月。開花までの年数：不明。

寿命：多年草。

他生物との関わり

ガガイモはイモムシなどからの食害を防ぐために毒を持っているが、アサギマダラという蝶はこの毒に耐性を持っているだけでなく、これを利用し天敵からの捕食を防いでいるという。

興味深い話

■葉や毛を持った種子を陰干したものが薬用に用いられる。種子や葉は強壯、強精薬になり、種子につく白い毛は止血に効果がある。

■生の葉からでる乳液は、毒虫の咬傷やいぼに薬効があるという。



ガガイモの葉。ハート形



イケマの花は白い

■若芽や果実が食用になり、若芽はおひたしやあえもの、てんぷら、塩漬にし、実はてんぷらで食べたり漬物にして保存食にする。

■地下茎は有毒なので要注意。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期						■						

参考文献

「北海道植物図譜」 滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981

「花のおもしろフィールド図鑑 夏」 ピッキオ 実業之日本社 2001

「名前といわれ 野の草花図鑑4」 杉村昇 偕成社 1990

「北海道薬草図鑑 野生編」 山岸喬 北海道新聞社 1992

「新版 北海道山菜図鑑」 佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜璃西社 2002

「植物名の由来」 中村浩 東京書籍 1980

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ